

## 2. 流域及び河川の自然環境

### 2-1 流域の自然環境

北上川流域は、本川及び各支川の源流部付近が国定・国立公園や自然公園等に指定されている。本川源流部には「十和田八幡平国立公園」、東部には「早池峰国立公園」、西部には「栗駒国立公園」が存在し、これらは5,000ha以上の規模を有し、豊かな自然環境が保たれている。

また旧北上川流域については、ラムサール条約の登録湿地である伊豆沼・内沼・蕪栗沼があり、野鳥のサンクチュアリーとなっている他、河口域は「南三陸金華山国定公園」「硯上山万石浦県立自然公園」に指定されており、源流域から河口に至るまで、豊かな自然が保たれている。



【上写真出典：岩手県 HP】【下写真出典：宮城県 HP】

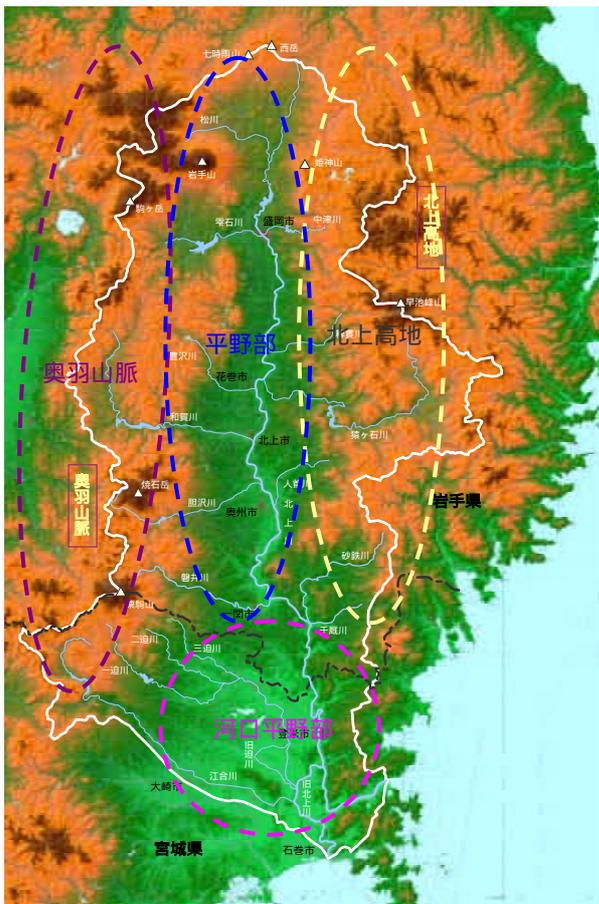


図 2-1 北上川流域の河川区分図

北上川流域の自然環境は、その地形の状況により東側の北上高地と西側の奥羽山脈、中央の平野部、宮城県北部の河口平野部の4地域に区分することができる。

北上高地は1,000m以上の山もあるが、大部分は地質の古い準平原地形であり勾配はなだらかである。早池峰山周辺では高山植物が生育している。また地質に由来する蛇紋岩植物や石灰岩植物といった特異な植生も北上高地ではみられる。

奥羽山脈は岩手山、秋田駒ヶ岳、をはじめ火山が多く、急峻な地形となっている。日本海側からの湿った空気により冬季は豪雪地帯となる。植生では高山植物が生育し、ブナの原生林が各所に残る自然豊かな地域となっている。

中央の平野部では水田、耕作地が広がっており所々に市街地が点在する。自然林は少なく、二次林が多くみられる。

河口平野部では水田を中心とした耕作地が広がっており、河道内にはヨシ群落が発達し日本の川では最大級の面積である。

## 2-2 河川の自然環境

### (1) 河川環境の特徴

北上川は日本の河川の中では比較的勾配が緩く、一関市狐禅寺の狭窄部を境にして上流と下流では河床勾配が異なり、上流域では1/250～1/600程度、中流域1/800～1/1,800程度であり、これに対して下流域では1/5,000～1/16,000程度と上中流域に比べて非常に緩やかになっている。

狭窄区間では川幅が狭いところで100m程度となり、他の区間と比べて独特な河川環境を形成しているが、流域全般的に大きな変化はなく、同様な河川環境フィールドが広大に広がっていることが特徴となる。

北上川は、水辺や高水敷については河畔林等が連続し、緑の回廊をなしていると共に、水域については、アユ、サクラマス、サケ等の回遊魚が上流域まで遡上しており、下流から上流域まで動植物の生息・生育地の連続性が保たれている。また、源流域から河口に至るまでの河床勾配の変化や、旧河道の状況、支川の合流等により、場に応じて様々な流れを呈しており、これによって多様な動植物が生息・生育する場を形成している。

北上川の全般的な植生は、河岸にはオニグルミやヤナギ類が分布しており、高水敷にはオギ群落

を中心にガマ、ミゾソバ等の抽水植物が生育、またオオカサスゲ、セリ、ヘラオモダカなどの湿生植物も生育している。河口付近にはヒライ・カモノハシ群落など砂浜植物群落もみられる。流水の緩やかなところでは広い河川敷が発達し、エノコログサ類、タデ類、ウシノケグサ類や帰化植物が生育している。鳥類については、数多くの水鳥と水辺の鳥としてカイツブリ類、オオハクチョウ・コハクチョウなどのハクチョウ類、オシドリ、マガモ、カルガモなどのガン・カモ類、コサギ・アオサギ・ゴイサギなどのサギ類・シギ類などが上流から下流にかけて全般的に見られる。また渡り鳥が全川に渡って確認されており、鳥類に北上川は重要な環境となっている。食物連鎖で上位に来るワシ・タカ類も北上川沿いで多く出現しており、北上川沿い及びその周辺の生物層が豊かであることを示している。

魚類はウグイ、オイカワ、カマツカ、モツゴ、ニゴイ、フナ類などが、ほぼ全川に渡って生息しており、盛岡市上流の北上川本川ではヤマメも見られる。全般的に淡水性のコイ科魚類が多いが、下流側ではボラ、メナダ、スズキ、マハゼなどの汽水性の魚類も生息している。

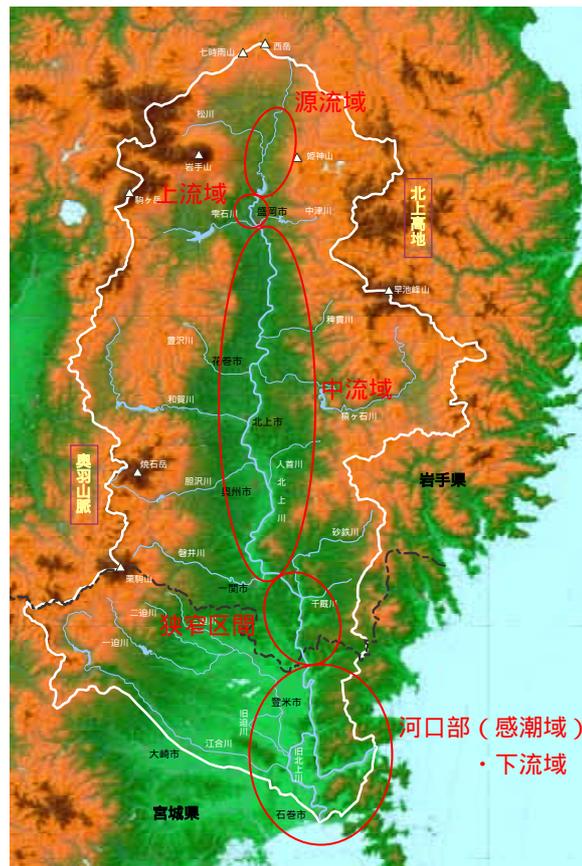


表 2-1 北上川流域の河川環境区分

河川区分	地形概要
源流域 196km～	四十四田ダム上流 山間の狭い平地を流下. 水田等の耕作地が広がる
上流域 182km～196km	四十四田ダム下流～都南大橋付近 河床勾配: 1/200～1/600程度 川幅が狭く盛岡市街地内を流下
中流域 79km～182km	都南大橋～一関遊水地付近 河床勾配: 1/1,000程度 大部分が耕作地の平野を流下
狭窄区間 46km～79km	一関遊水地～岩手県・宮城県境付近 河床勾配: 1/3,700～1/7,600程度 山地が河川間際まで迫った狭窄部を流下
河口部(感潮域) ・下流域 0km～52km	岩手県・宮城県境～河口部 河床勾配: 1/5,000～1/17,000程度 水田を中心とした耕作地帯を流下

## (2) 源流域 (四十四田ダム上流)

北上川の源流は七時雨山麓説、丹藤川説、西岳山麓説など諸説があるが、明確には指定はされておらず、一級河川指定上の源を岩手町の御堂観音境内の湧水「弓弭の泉」としている。弓弭とは「弓の両端の弓弦をかけるところ」のこと。平安時代、前九年の役でこの地に遠征してきた源義家が、日照りに苦しむ兵馬を助けるために弓弭で岩を突くと、そこからコンコンと清水が流れ出した、という伝説が残されている。

北上川はその後、丹藤川、松川等の支川を合わせて南流し、徐々に大河の様相を整えていく。周辺は山間の狭い平地であり、河岸段丘を形成し、周りには水田等の耕作地が広がっている。その河川風景は、歌人 いしかわたくぼく 石川啄木の多くの作品に影響を与えていると言われている。

北上川の右支川である松川上流には、最盛期に「雲上の樂園」とまで言われた松尾鉦山があったが、松尾鉦山の低迷や落盤事故等によって河川は強酸性水で汚濁され、上流部はもとより中流部から下流部にかけてもアユ、サケ、ウグイ等の魚類の大量へい死事故が相次ぎ「死の川」と化した。現在は中和処理によって清流を取り戻している。

【出典：岩手河川国道事務所資料】



北上川の一級河川指定上の源「弓弭の泉」



石川啄木の郷里しげのみ茨木の北上川風景。「鶴飼橋」は小説「島影」の舞台になっている。



【出典：岩手河川国道事務所資料】

### [松川合流点の状況]

昭和49年の松川合流点の状況。松尾鉦山からの汚濁水がはっきりと分かる。

河川を管理している国土交通省では、昭和47年5月から緊急の処置として炭酸カルシウムを利用した暫定中和処理を開始。その後、さらなる水質の改善と清流を維持するために、鉄酸化バクテリアによる新中和処理方法を確立。昭和57年1月からは新中和処理施設の管理・運営を岩手県に引き継いでいる。

(3) 上流域 (182.0km ~ 196.4km)

四十四田ダム下流より都南大橋下流までの上流域は川幅が狭く、河床勾配が 1/250 ~ 1/600 と急であり、瀬と淵の連続する変化に富む区間である。この区間は岩手県最大の都市である盛岡市市街地を流下しており、河畔林は少なくグラウンドや公園などが多く整備されており、定期的に刈払が行われる人工草地在主である。しかし、市街地より上流では斜面が河川間際まで迫っており、山地性の動植物が確認できる。

少ない河畔林は、ヤマセミなどが魚類を捕獲するための止まり木として利用するほか、チゴハヤブサなど猛禽類も休憩に利用している。上流域にみられる湧水はトウホクサンショウウオの産卵場としても利用されている。

なお、盛岡市街地区間では北上川沿いに遊歩道が整備されており、岩手県のシンボルである「北上川」と「岩手山」が眺められ、地域の憩いの場となっている。

【出典：岩手河川国道事務所資料】



四十四田ダムの下流は川幅が狭く斜面が河川間際まで迫っている



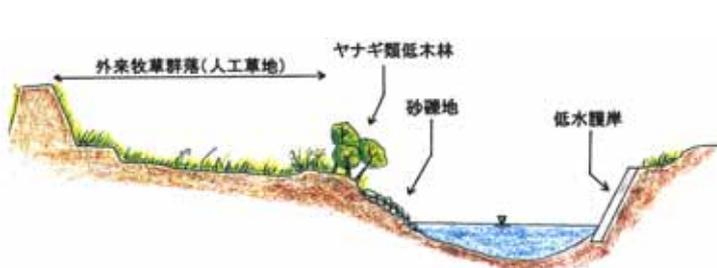
盛岡市街地付近では河畔林が少ない。高水敷は整備され人工草地在主になる



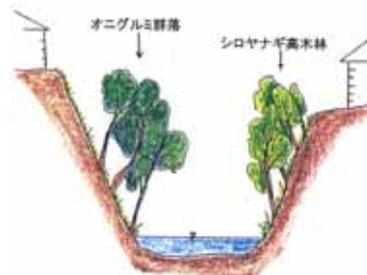
【出典：岩手河川国道事務所資料】

[開運橋からの眺め]

盛岡駅前 開運橋からの北上川の眺めは、岩手県のシンボルである「北上川」と「岩手山」が同時に眺められ、遊歩道などが整備されており、地域の憩いの場となっている。



市街地区間の河川環境イメージ



市街地上流の河川環境イメージ

(4) 中流域 (77.0km ~ 182.0km)

都南大橋下流から一関遊水地までの平野部を流下する中流域は、川幅が広く、瀬と淵が連続する箇所が多くみられる。河床勾配は一関遊水地付近でやや緩く 1/1,800 となるが、概ね 1/1,000 前後である。

この区間には、湯水時にのみ姿を見せるイギリス海岸や「さくらの名所 百選」「みちのく三大桜名所」として知られる展勝地公園など特徴的な河川景観がみられ、多くの観光客が訪れている。

中流域は、一部が市街地となっているがほとんどが水田などの耕作地帯を流下している。磐井川合流地点付近ではセイタカアワダチソウなどの外来植物の侵入が見られるが、川に沿ってシロヤナギやオニグルミの群落は河畔林として分布する。

河畔林はニホンリスやアカゲラ等のキツツキ類の生息域となっている他、冬に飛来するオオワシ、オジロワシなどの休憩場として利用される。冬季にはオオハクチョウやカモ類が越冬のため多数飛来し、餌付けをする光景もみられる。また早瀬にはサケやアユの産卵場となっている箇所がある。

【出典：岩手河川国道事務所資料】



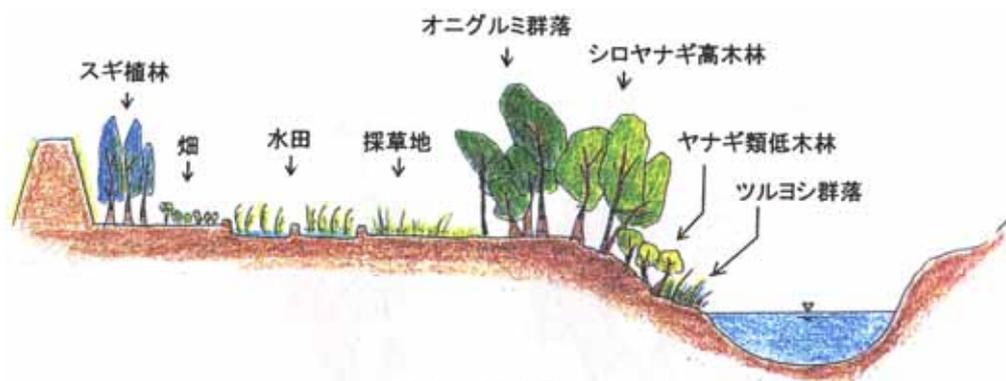
瀬と淵が連続している



【出典：岩手河川国道事務所資料】

[イギリス海岸]

北上川と瀬川の合流点付近に位置し、第3紀層である凝灰質の泥岩が露出している。昔はたしかに海の渚だったことから、そこに展開する白い泥岩と青い水のあやなす風情に、ドーバー海峡の白亜の壁を連想し、この河岸を宮沢賢治は「イギリスあたりの白亜の海岸を歩いているような気がする」といって「イギリス海岸」と名付けられた。現在はあまりその姿を現さないが、湯水期には時々見ることができる。



中流域の河川環境イメージ

(5) 狭窄区間(46.0km～77.0km)

一関遊水地より下流側の県境付近は、山地が河川間際まで迫った狭窄区間となっている。河床勾配も  $1/3,700 \sim 1/7,600$  と非常に緩やかであり、瀬はほとんどなく淵も明瞭ではない。

ケヤキやコナラなど山地斜面に見られる群落が多く、マダケも多い。やや開けた箇所にはまとまったオギなどの草本群落が見られるものの、川辺の草本群落はあまり発達していないのが特徴である。

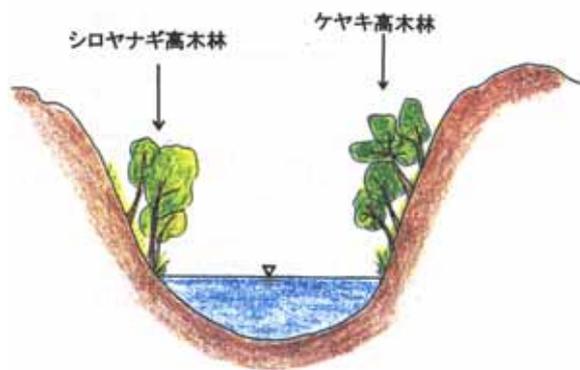
河川でありながら山地斜面に多く見られるケヤキやコナラの群落をオオタカやミサゴなどの猛禽類が止まり木などに利用しており、サギ類の集団繁殖地にもなっている。オギなどの湿性の草本群落はオオヨシキリが営巣地として利用している。

水域では河岸沿いの所々にある淵にモクズガニが生息している。

【出典：岩手河川国道事務所資料】



川幅が狭く斜面が河川間際まで迫った狭窄部となっている。斜面はケヤキやコナラが生育している。



狭窄区間の河川環境イメージ

(6) 河口部（感潮域）・下流域(0.0km～46.0km)

県境付近から下流の河口平野域は、開けた田園地帯を流下し、河口から 26km 付近でときなみあらいげき わきやあらいげき 鴉波洗堰 脇谷洗堰により旧北上川に分派し、柳津から飯野川まで北上川第一期改修により開削された河道を流下、その後追波湾へ流れ出る。河床勾配は 1/5,000～1/16,000 と非常に緩やかな流れになっている。

県境付近（46km）～柳津付近（26km）は、緩やかな流れの下流域であり、河道湾曲部下流には大きな淵が各所でみられる。高水敷部分は、畑・水田・果樹園に利用されている場所が多く存在する。魚類では、ニゴイ、タモロコなどの純淡水魚や、ウグイなどの回遊魚がみられる。

柳津付近（26km）から北上大堰（17.2km）までは、平常時は北上大堰の湛水域となっており、ほとんど流れはない。柳津付近には昔名残の舟渡しが2カ所現存しており、現在も市民の足として利用されている。

北上大堰（17.2km）から下流の河口部は、淡水と海水の混じり合う感潮域となっており、多様な水環境が形成されている。この区間はヤマトシジミの漁場となっている。また、河口～10km 付近の河岸にはヨシ群落が広がっており、環境省の「日本の音風景百選」にも指定されている。ヨシは冬に刈り取られ、萱葺屋根の材料として用いられている。魚類では、ニゴイ、ナマズなどの純淡水魚、ウナギなどの回遊魚だけでなく、マハゼなどの汽水・海水魚も見られ、またアユやサケなどが遡上している。

【出典：北上川下流河川事務所資料】



旧北上川への分流地点



北上川河口



[北上川河口ヨシ原]

水面を渡る風がヨシ原をざわりと揺さぶるその音は「日本の音風景百選」にも選ばれている。そして、冬を迎えると冬の風物詩ともいえるヨシ刈りが行われ、良質な草屋根材となる。

また、近年水環境の保全や浄化の面からも注目されている。

【出典：みやぎ北上川今昔】

## (7) 旧北上川

旧北上川は、北上川の右支川であり、北上川河口から27km付近で分派し、迫川、旧迫川、江合川を合わせて、石巻市街地を貫流し、石巻湾へ流下する。河床勾配は1/5,000～1/7,000と非常に緩やかな流れになっており、江合川合流点付近までは感潮区間となっている。

植物群は、木本群落ではヤナギ群落、オニグルミ群落で、草木群落ではヨシ群落とオギ群落がみられる。

魚類では、満潮時になると<sup>かいほく</sup>開北橋付近まで低層に海水が入り込んでくることから、ヒラメなどの純海水性の魚やマハゼなどの汽水性の魚が生息し、脇谷・鴉波洗堰付近では「サデ網漁」が行われている。

周辺には仙北平野と呼ばれるひとめぼれ、ササニシキを中心とした日本有数の稲作地帯が広がり、河口部には石巻市中心部を抱えており、仙北地域の社会、経済、文化等の基盤をなしている。石巻では<sup>かわむらまごべえ</sup>川村孫兵衛の報恩への感謝の念を込めて、毎年8月「石巻川開き祭り」が開催されている。

また迫川流域内に位置する伊豆沼、内沼、蕪栗沼は、日本を代表する渡り鳥の越冬地となっており、湿地に生息・生育する動植物を国際的に保護・保全し、それらの生息地である湿地の「賢明な利用」(ワイズユース)を促進する「ラムサール条約」に登録されている。



【出典：北上川下流河川事務所資料】

【出典：北上川下流河川事務所資料】



脇谷・鴉波洗堰から旧北上川に分派



江合川合流点



旧北上川河口

### [サデ網漁]

旧北上川の上流端脇谷、鴉波洗堰付近では「サデ網漁」が行われている。

サデ網漁は長さ5メートル、重さ10キロに及ぶ巨大なラケット状の網で豪快にすくい取っていく。この網が着物の袖に似ているところから「ソデ網漁」が変じたという説もある。

## (8) 雫石川

雫石川は、北上川の右支川であり、奥羽山脈の駒ヶ岳、烏帽子岳等の急峻な山々から流水を集め、途中御所ダムを経て盛岡市市街地付近の北上川本川に合流する。御所ダムから下流区間の河床勾配は 1/300 ~ 1/460 程度であり、交互に瀬淵が見られる。

高水敷にはシロヤナギを中心とした広大な河畔林が広がり、北上川合流点から 2km 程度までは特定植物群落「雫石川の水辺植生」として指定されている。ヨシやカササゲを主体とした沼沢地にはイヌセンブリやミクリが生息している他、ヨシゴイの生活、繁殖の場になっている。また、沼沢地の湧水だまりはトウホクサンショウウオの産卵場となっている。

水域では、ヤマメやギバチ等の瀬淵に生息する魚種が生息している他、サケの産卵場が点在し、また漁協によるウグイの産卵場の造成が行われている。

御所ダム下流付近では、農地へのかんがい用水補給がなされ、下流の盛岡市街地付近では、高水敷にゴルフ場やグラウンド等の整備がなされており、人々の憩いの空間となっている。

【出典：岩手河川国道事務所資料】



北上川合流点より 7.0km 地点の雫石川  
雫石川からかんがい用水が補給されている



北上川合流点より 3.0km 地点の雫石川  
高水敷には広大な河畔林がある他、グラウンド等が整備されている

## (9) 中津川

【出典：岩手河川国道事務所資料】

中津川は、北上川の左支川であり、北上高地の御大堂山や岩神山等の比較的なだらかな山麓から流水を集め、途中綱取ダムを経て盛岡市市街地付近の北上川本川に合流する。綱取ダムから下流区間の河床勾配は 1/150 ~ 1/250 程度であり、交互に瀬淵が見られる。

市街地を流下する区間では、堤防や護岸、遊歩道が整備されており、人工草地在りである。河畔林にはケヤキやオニグルミ、ヤナギ等の低木群落等が見られるものの、数は少ない。

高水敷の湿地にはノダイオウが見られる他、水際付近ではミクリが生息している。また、上の橋上流ではカツキバタ群落が保全されている。

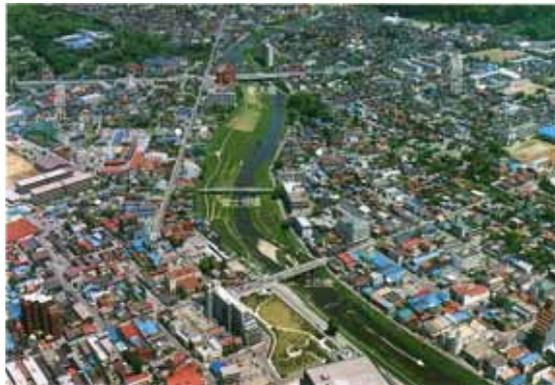
高水敷の草地や川中の石礫はカジカガエルの生息域、繁殖場所になっており、上流域の湧水ではトウホクサンショウウオの産卵場となっている。

水域では、瀬の石の下にカジカが身を潜めている他、秋口にはサケの遡上も見られる。

中津川ではサケ、ヤマメ、カジカ等の放流が盛んに行われており、ホタルの鑑賞会も行われている。また、中津川に整備されている盛岡水辺プラザは「民俗文化財」に指定されているチャグチャグ馬コの洗足の儀の場となっており、地域と河川が密接な関係を築いている。



北上川合流点より 1.0km 地点の中津川市街地を流下しており、遊歩道が整備されている河川敷はチャグチャグ馬コの洗足の儀の場となっている



北上川合流点より 1.5km 地点の中津川瀬にはカジカ、ヤマメ等が生息している

## (10) 猿ヶ石川

猿ヶ石川は、北上川の左支川であり、北上高地の薬師岳に水源を發し民話の故郷 遠野市を流下した後、田瀬ダムを経て北上市付近の北上川本川に合流する。田瀬ダムから下流区間の河床勾配は1/160～1/1200程度と流れの変化に富み、瀬淵が交互に見られる。

北上高地を縫うように流れ、狭い平地は水田等の耕作地として利用されている。山地を流れる区間では、川幅が狭く流れも速い。水深は浅く、岩が露出している区間もある。平地を流れる区間では、川幅が広くなり、瀬や淵、中州も見られ、変化に富んだ流れになっている。

河川沿いにはツルヨシ群落やヤナギ群落が見られる他、山地に接する区間ではアカマツ群落も見られる。

高水敷の湿地にはノダイオウが見られる他、水際付近ではミクリが生息していることが多い。

高水敷の草地や川中の石礫はカジカガエルの生息域、繁殖場所になっている他、水田脇の水路などではトウホクサンショウウオやヘイケボタルの産卵場となっている。また、イモリやトウキョウダルマガエル等も水路や水田に見られる。

水域では、下流域にサケの産卵場が点在する他、漁協によるウグイの産卵場の造成が行われている。

【出典：岩手河川国道事務所資料】



北上川合流点より 13.0km 地点の猿ヶ石川  
川幅が広く、瀬や淵、中州などがあり、流れに変化がある



北上川合流点より 19.0km 地点の猿ヶ石川  
山間地を流れ、川幅が狭く流れが速い  
田瀬ダムから取水し発電する東和発電取水が還元される

## (11) 和賀川

和賀川は、北上川の右支川であり、奥羽山脈の朝日岳に水源を発し、温泉郷として有名な西和賀町（旧湯田町）を流下した後、湯田ダムを経て北上市市街地を流下、北上川本川に合流する。湯田ダムから下流区間の河床勾配は、山間区間で 1/100 程度、山間区間を抜けると 1/300 程度となり、下流区間では瀬淵や中州が多く見られる。

山間部を流れる区間では、川幅が狭く流れも早くなっており、川際まで樹木が張り出している。

山間部を抜けた区間では、砂州を形成しながら水田地域を流れ、北上市市街地付近では多くの中州が現れる。高水敷には河川公園や運動場等の人工草地が見られるものの、多くはヤナギ等の低木類が繁茂し、水際まで張り出している。

水域では、早瀬がアユ、サケの産卵場となっている他、流れが穏やかな淵の川底にはカジカやギバチ、カマツカ等が生息している。

【出典：岩手河川国道事務所資料】



北上川合流点より 4.0km 付近右岸より上流を望む  
高水敷にヤナギ等の低木類が繁茂する



北上川合流点より 20.0km 地点の和賀川（橋上より上流を望む）山間部を流れる区間では、川際まで樹木が張り出している

## (12) 胆沢川

胆沢川は、北上川の右支川であり、奥羽山脈の焼石岳に水源を発し、石淵<sup>いしぶち</sup>ダムを経て奥州市付近の北上川本川に合流する。石淵ダムから下流区間の河床勾配は 1/90 程度と急峻であり、山間区間では溪流を呈している。

山間区間を流下した後、胆沢川の右岸側に広大な扇状地が開け、水田地帯を流下する。胆沢川はこの広大な水田地帯にかんがい用水を供給する水瓶であり、古くから堰や用水路の整備が行われてきた。

河川沿いにはヤナギ等が見られ、河畔林にはヤマセミやカワセミが餌を捕る姿が見られる。

また、上流部や山地に接する区間ではクマタカ、オオタカ等の猛禽類が見られる。

水域では連続した瀬にイワナ、ヤマメ等の溪流魚が生息している他、瀬の石の裏などにはカジカが生息している。狭い高水敷の草地や川中の石礫はカジカガエルの生息域、繁殖場所になっている他、トウホクサンショウウオやクロサンショウウオ等の姿も見られる。

胆沢川は、平成 15 年の水質調査においては、東北第一位、全国で第七位の「きれいな水質」を誇り、清流にしか棲めないと言われている貴重な動植物の宝庫になっている。



胆沢川上流から扇状地を望む

胆沢川はこの広大な扇状地の水田にかんがい用水を購求している

### (13) 磐井川

磐井川は、北上川の右支川であり、奥羽山脈の栗駒山に水源を発し、景勝地である巖美溪<sup>げんびけい</sup>を流下した後、一関市市街地を経て、北上川本川に合流する。下流区間の河床勾配は 1/550 程度であり、瀬淵が交互に見られる。

市街地区間は堤防や護岸が整備され、主に人工草地になっているが、下流区間ではヤナギ等の河畔林が広がり、オオタカ等の止まり木として利用されている。

河畔林の林床にはノダイオウやホソコウガイゼキショウ等の貴重な植物が見られる箇所もある。

冬季にはオオハクチョウ等の冬鳥の集団越冬地となり、水際の草地等は休息場として利用されている。

水域では、流れの穏やかな箇所ではフナ類の生息場に、瀬が見られる箇所ではウグイやアユ、ギバチ等が生息している。

【出典：岩手河川国道事務所資料】



北上川合流点より 5.0km 付近の磐井川



北上川合流点より 6.0km 地点の磐井川  
周辺は市街地で、河川敷にはグラウンド、耕作地等に用いられている



【出典：岩手河川国道事務所資料】

#### [巖美溪]

国の名勝天然記念物。時の流れが創造した奇岩、怪岩がおよそ 2km にわたる美しい渓谷。

仙台藩主 伊達政宗が、「松島と巖美がわが領地の二大景勝地」と自慢し、度々この地を訪れ、渓谷の織り成す自然美を觀賞したという。季節に応じて変化する景観美は、見る人の目を楽しませ、心を和ませる。

#### (14) 砂鉄川

砂鉄川は、北上川の左支川であり、北上高地の室根山や鷹ノ巣山等の比較的なだらかな山麓から流水を集め、景勝地である狛鼻溪を流下した後、一関市東山、川崎を経て、北上川本川に合流する。下流区間の河床勾配は 1/750 程度と流れの変化に富み、瀬淵が交互に見られる。

堤防間際まで耕作地として利用されており、河岸に残されたシロヤナギ等の河畔林には、カワセミやヤマセミが魚をとる際の止まり木として利用している姿が見られる。また、水際の泥が堆積している箇所にはノダイオウやタコノアシ等の湿性の貴重種が生育している。

水域では、アユの産卵場が多く点在しアユの遡上が見られる他、水際の石礫等はカジカガエルの生息・繁殖場所となっている。

砂鉄川はアユが多く遡上することからアユ釣りのメッカとなっており、シーズンになれば約 15,000 人も釣人が訪れる。

【出典：岩手河川国道事務所資料】



北上川合流点付近の砂鉄川  
河川間際まで耕作地として利用され、河岸には河畔林がみられる



北上川合流点から 5km 付近の砂鉄川  
点在する瀬はアユの産卵場となっている



【出典：岩手県 HP】

#### [狛鼻溪]

大正 14 年に国の史跡名勝天然記念物に指定。約 2km に渡って両岸に巨岩、絶壁が連なり、壮大な景観を呈する。

観光船下りがなされており、春には藤の花、秋には紅葉が渓流を彩り、多くの観光客が訪れている。

## (15) 江合川

江合川は、旧北上川の右支川であり、その上流を荒雄川と称し、宮城県大崎市の荒雄岳に水源を発し、紅葉で有名な鳴子峡より流下してくる右支大谷川を合わせ、山間区間を流下したあと、大崎耕土の中心部を鳴瀬川と共に平行して東流し、大崎市古川地先で新江合川を派川として分流し途中田尻川、出来川等の支川を合わせ、旧桃生郡河南町（現石巻市）の和淵にて旧北上川に合流する。下流区間の河床勾配が  $1/1,500 \sim 1/2,000$  程度で流れの変化に富み、瀬と淵が連続して交互に見られ、緩やかな流れになっている。

河川敷は牧草地や畑地としての利用が目立っている。流水の影響を受ける河岸沿いには、ネコヤナギ群落やツルヨシ群落が分布している。またニゴイやモツゴ等のコイ科魚類が多く見られ、上流部ではアブラハヤ、ギバチ等の清流に生息するとされている種が、下流部ではボラやハゼ等の汽水・海水魚が確認されている。

江合川河川公園付近では冬季にオオハクチョウやオナガガモの餌付け場となっており、水際の草地は休息場として利用され、渡り鳥の飛来地となっている。

【出典：北上川下流河川事務所資料】



旧北上川合流点より 10.0km 付近の江合川  
涌谷町の市街地を流れており、河川敷では毎年東北鞍馬競技大会が行われている。



北上川合流点より 26.0km 付近の江合川  
新江合川への分流地点。河川敷に市民公園が整備されており、冬に飛来した白鳥の餌付け場となっている。

【出典：鳴子ダム管理所資料】



江合川上流にある鳴子ダム  
ダム流域面積の大部分が栗駒国立公園に入っており、約 90% が森林面積で占められている。

(14) 北上川における生息種と特定種

北上川における貴重な動植物種を水辺河川の国勢調査等の結果をもとに、レッドデータブック・レッドリスト(環境省)記載種、天然記念物指定種などの学術上または希少性の観点から抽出した。

貴重な動植物は、植物で75種、哺乳類1種、鳥類41種、は虫類両生類11種、魚類6種、底生生物15種、陸上昆虫120種である。

表 2-2 北上川における特定種

NO	植物	NO	植物	NO	魚類	NO	陸上昆虫
1	アイアシ	71	ヤナギヌカボ	5	メダカ	50	クロサビイロハネカクシ
2	アイアスカイノデ	72	ヤハスエンドウ	6	ヤリタナゴ	51	クロマダラナガカメムシ
3	アサザ	73	ヤマホタルブクロ			52	ゲンゴロウ
4	イガガヤツリ	74	ユキヤナギ	NO	底生生物	53	ゲンジボタル
5	イガホオツキ	75	レンブクソウ	1	アオサナエ	54	コアオマルガタゴミムシ
6	イヌガヤ			2	イシガイ	55	コエンマムシ
7	イヌセンブリ	NO	ほ乳類	3	オジロサナエ	56	コオイムシ
8	イヌハギ	1	カモシカ	4	キイロマツモムシ	57	コスナゴミムシダマシ
9	イヌバナ			5	ケスジドロムシ	58	コニワハンミョウ
10	イノモトソウ	NO	鳥類	6	ゲンゴロウ	59	ゴマダラチョウ
11	イワウメツル	1	オオタカ	7	コオイムシ	60	ジャコウアゲハ
12	ウマノスズクサ	2	オオバン	8	コバンムシ	61	ズイムシハナカメムシ
13	ウミミドリ	3	オオウシ	9	ダビドサナエ	62	スジクロチャバネセセリ
14	オオアブノメ	4	オシドリ	10	ドブガイ	63	スジメスアトキリゴミムシ
15	オオガクキンソウ	5	オジロウシ	11	ホンサナエ	64	セアカオサムシ
16	オオクワ	6	カワアイサ	12	マシジミ	65	チビアオゴミムシ
17	オオシバナ	7	カワウ	13	マルタニシ	66	チョウセンマルクビゴミムシ
18	オカヒジキ	8	カワセミ	14	モノアラガイ	67	チョウトンボ
19	カジイチゴ	9	カンムリカイツブリ	15	ヤマサナエ	68	ツマキチョウ
20	カヤ	10	コヤシサシ			69	ツマキミズギウゴミムシ
21	カワツルモ	11	コクガン	NO	陸上昆虫	70	ツマグラオアカバネカクシ
22	カワラナデシコ	12	コチドリ	1	アオグロヒラタゴミムシ	71	ツヤマルエンマムシ
23	キクムグラ	13	コハクチョウ	2	アオハセセリ	72	ツグクチョウ
24	キクモ	14	コヨシキリ	3	アオハダトンボ	73	ドウイロミズギウゴミムシ
25	キセウタ	15	サシバ	4	アカイクビハネカクシ	74	トビロヒョウタンゾウムシ
26	ギンラン	16	サンコウチョウ	5	アカガネアオゴミムシ	75	トラフトンボ
27	コウホネ	17	シノリガモ	6	アカガネオサムシ	76	トウダカワゲラ
28	コウモリカズラ	18	シロチドリ	7	アカケシガムシ	77	ナガチビヒョウタンゴミムシ
29	ゴマノハグサ	19	タゲリ	8	アカスジキンカメムシ	78	ナカハラヨコバイ
30	コムラサキ	20	チゴハヤブサ	9	アカムネハナカミキリ	79	ナガマルガタゴミムシ
31	コリヤナギ	21	チュウサギ	10	アサキマダラ	80	ナンキンキノカワガ
32	サクラソウ	22	チュウヒ	11	アサマイチモンジ	81	ノグチナガゴミムシ
33	サクラタデ	23	チョウゲンボウ	12	アシミソナガゴミムシ	82	ハコダテゴモクムシ
34	ジョウロウスゲ	24	ツミ	13	アシミソヒメヒラタゴミムシ	83	ハマゲエンマムシ
35	シロバナカモメツル	25	ノコマ	14	イグチケブカゴミムシ	84	ハマヒョウタンゴミムシダマシ
36	シロヤマブキ	26	ノジコ	15	イグチマルガタゴミムシ	85	ハマハサミムシ
37	センウスモドキ	27	ノスリ	16	ウスアカハソコハネカクシ	86	ヒトスジオオメイガ
38	ソクズ	28	ノビタキ	17	ウスムラサキイラガ	87	ヒメマイトトンボ
39	タコノアシ	29	ハイイロチュウヒ	18	ウラギンシジミ	88	ヒメオオメナガカメムシ
40	タチハコベ	30	ハイタカ	19	ウラナミシジミ	89	ヒメシロチョウ
41	チョウジソウ	31	ハギマシコ	20	ウラベニエダシヤク	90	ヒメツヤマルガタゴミムシ
42	ツルアブラガヤ	32	ハヤブサ	21	エンマムシ	91	ヒメヒョウタンゴミムシ
43	テリハノイバラ	33	ハリオアマツバメ	22	オオクロナガゴミムシ	92	ヒメソノナガゴミムシ
44	ナガボノシロウレモコウ	34	バン	23	オオスナハラゴミムシ	93	ヒメソノハマベゴミムシダマシ
45	ナガミノツルケケマン	35	ヒシクイ	24	オオチャバネセセリ	94	ヒョウタンゴミムシ
46	ナベナ	36	フクロウ	25	オオナガゴミムシ	95	ヒラタキイロチビゴミムシ
47	ナミキソウ	37	ホオアカ	26	オオハサミムシ	96	ヒラタコミズギウゴミムシ
48	ナラガシウ	38	マガン	27	オオヒカゲ	97	ヒロムネナガゴミムシ
49	ヌマアゼスゲ	39	ミサゴ	28	オオホシボシゴミムシ	98	フタオレウスグロエダシヤク
50	ノウルシ	40	ヤマセミ	29	オオムラサキ	99	フタバシチビゴミムシ
51	ノササゲ	41	ヨシガモ	30	オオルリハムシ	100	ヘイケボタル
52	ノダイオウ			31	オグラヒラタゴミムシ	101	ヘーツボソアトキリゴミムシ
53	ハイカモ	NO	は虫類・両生類	32	オサムシモドキ	102	ヘリグロチャバネセセリ
54	ハシリドコロ	1	イシガメ	33	オゼイトトンボ	103	ホソトビミズギウゴミムシ
55	ハマナス	2	カゴガエル	34	カワチマルクビゴミムシ	104	ホソハマベゴミムシダマシ
56	ハマナデシコ	3	カジカガエル	35	キアシマルガタゴミムシ	105	ホンサナエ
57	ハマボウフウ	4	クロサンショウウオ	36	キタカブリ	106	マダラヤンマ
58	ヒメイズイ	5	シロマダラ	37	ギニチモンジセセリ	107	マムハンミョウ
59	ヒメシロアサザ	6	スッポン	38	キベリアオゴミムシ	108	ミドロミズメイガ
60	ヒヨクソウ	7	タカチホヘビ	39	キベリカワハネカクシ	109	ミヤマサナエ
61	ホソパイヌタデ	8	ツチガエル	40	キベリチビゴモクムシ	110	ミヤマチャバネセセリ
62	ホタルカズラ	9	トウキョウダルマガエル	41	キベリマメゲンゴロウ	111	ムカシトンボ
63	マイヅルテンナンショウ	10	トウホクサンショウウオ	42	キボシアオゴミムシ	112	ムナピロオオキスイ
64	マキエハギ	11	ニホンアカガエル	43	キボシカミキリ	113	メダカチビカワゴミムシ
65	マダイオウ			44	キンナガゴミムシ	114	ヤマトケシマグソコガネ
66	マルバソウキライ	NO	魚類	45	クビナガゴモクムシ	115	ヤマトゴマフガムシ
67	マルバトウキ	1	ギバチ	46	クロアゲハ	116	ヤマトシジミ
68	ミクリ	2	キンブナ	47	クロオオナガゴミムシ	117	ヤマトバッタ
69	ミシマサイコ	3	スナヤツメ	48	クロカナブン	118	ヨコヤマトラカミキリ
70	ミスアオイ	4	タナゴ	49	クロキオビシヨウカイモドキ	119	ヨツモンカタキバゴミムシ
						120	ヨツモンコミズギウゴミムシ

表記順は分類毎にアイウエ順

〔動植物種の選定根拠〕

- ・平成2～16年度河川水辺の国勢調査
- ・平成12年度水辺プラザの環境調査
- ・平成13年河川水辺の国勢調査(その1)報告書〔概要〕
- ・平成14年度北上川自然環境調査手法検討業務
- ・平成13年河川水辺の国勢調査報告書〔四十四田ダム編〕
- ・平成13年河川水辺の国勢調査報告書〔御所ダム編〕
- ・平成13年河川水辺の国勢調査報告書〔田瀬ダム編〕
- ・平成13年河川水辺の国勢調査報告書〔湯田ダム編〕
- ・平成13年河川水辺の国勢調査報告書〔石淵ダム編〕



表 2-3(2) 狭窄部・下流域に生息する主な動植物

環境区分	群落	主な植物	注目種	利用状況	
狭窄部	河畔林	シロヤナギ群落 クサヤナギ群落 カワヤナギ群落	シロヤナギ クサヤナギ カワヤナギ 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>下流域は山地が河川間際まで迫っており、河川でありながら山地斜面によく見られるクサヤナギの群落が多く見られる。</li> <li>また、こうした林内にはクサヤナギなど貴重種が生息している箇所がある。</li> <li>山地環境にはノシメトンボが生息する。</li> <li>クサヤナギ等の猛禽類は河畔林周辺を狩場としている。また、休憩等の止まり木としても利用している。</li> <li>クサヤナギ・クサヤナギ等は河畔林に集団分布地を形成するほか、クサヤナギ等も繁殖の場として利用している。</li> <li>林縁やクサヤナギ等が密生する藪にはクサヤナギが生息する。</li> <li>クサヤナギ・クサヤナギは魚類を捕獲するために河川にはりだした枝を利用する。</li> <li>クサヤナギやクサヤナギ等の昆虫類は、ヤナギ類の樹液に集まる。</li> <li>河畔林及び周辺にある夏緑広葉樹林の林床には、クサヤナギやクサヤナギなど、貴重な草本類の生育環境になっている。</li> </ul>	
	草地	クサヤナギ群落 クサヤナギ群落 人工草地 (堤防、採草地等)	クサヤナギ クサヤナギ 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>クサヤナギなどの高丈草原は、クサヤナギが繁殖の場や生息域として利用しているほか、草地 - 林縁はクサヤナギ等も生活の場としている。</li> <li>堤防や高水敷などに見られる人工草地などの草原にはクサヤナギが繁殖・採餌等の生活の場として利用する。</li> <li>また、こうした環境を好むクサヤナギ等を食草とするクサヤナギなどが見られるほか、クサヤナギやクサヤナギも生息域にしている。</li> <li>日当たりのよい草地や林縁の草地などには、クサヤナギやクサヤナギ等の貴重種が生息する箇所がある。</li> <li>植林地や二次草地、人工草地などの草地環境はクサヤナギ類の生活の場となっている。</li> </ul>	
	水際 (自然河岸)		クサヤナギ クサヤナギ 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>クサヤナギやクサヤナギ等のカモ類は、水面や水際の草地を生息域として利用している。</li> <li>クサヤナギやクサヤナギなどの湿性の貴重種は、水際の泥が堆積している箇所に生息していることが多い。</li> </ul>	
	池沼		クサヤナギ クサヤナギ 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>クサヤナギやクサヤナギは、森林の落葉・倒木・石の下などを生息域として利用している。</li> <li>産卵期に池沼に集まり、水草等に産卵する。</li> <li>クサヤナギが採餌場として利用している。</li> </ul>	
下流域	水際	水辺植生	クサヤナギ クサヤナギ 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>クサヤナギやクサヤナギは、森林の落葉・倒木・石の下などを生息域として利用している。</li> <li>産卵期に池沼に集まり、水草等に産卵する。</li> <li>クサヤナギが採餌場として利用している。</li> </ul>	
	河川敷		ガマ マコモ ミクリ ミソソバ ヤナギタデ オオイヌタデ クサヤナギ スジグロチャバネセセリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガマなどの抽水植物群落は水域と陸地の連続性の確保のために重要である。</li> <li>ヒヌマイトトンボは海岸沿いのヨシやマコモが繁茂する汽水域の湿地や沼を生息域としている。</li> <li>チョウトンボはマコモやガマなど草丈の高い挺水植物がよく繁茂している腐植栄養型の池沼を生息域としている。</li> <li>ミクリの生育する環境は止水部であるため、ヤンマ類、カエル類が生息域として利用している。</li> <li>ミソソバ群落は多くのチョウ類が吸蜜のために訪花する。</li> <li>ヤナギタデはヤマトシジミの成虫の訪花植物の1つである。</li> <li>オオイヌタデはイチモンジチョウの成虫の訪花植物の1つである。</li> <li>クサヤナギはスジグロチャバネセセリの幼虫の食草となる。</li> </ul>	
			ヨシ原	ヨシ チュウビ カシラダカ オオヨシキリ パン、ヒクイナ	<ul style="list-style-type: none"> <li>チュウビはヨシ原を採餌場として利用するほか、冬場には集団でねぐらとして利用する。</li> <li>カシラダカが冬季のヨシ原をねぐらとして利用している。</li> <li>オオヨシキリは休耕地などのヨシ原を繁殖場、採餌場として利用している。</li> <li>パン、ヒクイナなどが繁殖場として利用している。</li> <li>ツルヨシ群落は河川の景観を特徴づける。</li> </ul>
			ヤナギ林	ネコヤナギ タチヤナギ、カワヤナギ、 アカメヤナギ	<ul style="list-style-type: none"> <li>サギ類</li> <li>ネコヤナギはコムラサキの幼虫の食草の1つである。</li> <li>ヤナギ類は多くの生物が生息域として利用している。</li> <li>ヤナギ類は洪水などの攪乱に対する適応能力が高く、他の木本類に比べて河川との結びつきが強い。</li> </ul>
			その他の樹林	オニグルミ、ヒノキ ハンノキ マダケ ノイバラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>猛禽類</li> <li>ホオジロ、カシラダカ</li> <li>ヤマセミ</li> <li>サギ類</li> <li>サンショウウオ類</li> <li>ヘビ類</li> <li>クゴガエル、ヤマアカガエル</li> <li>北上川水系では広くみられ、水系を特徴づける群落の1つである。</li> <li>河畔林は猛禽類の餌場、繁殖場となる。</li> <li>ホオジロ、カワラヒロ等の小型のスズメ目が生息の場としている。</li> <li>ハンノキ群落（低木林）は動物の生息場所や林床植物の生育場所として重要である。</li> <li>ヤマセミが採餌場として利用している。</li> <li>クサヤナギやクサヤナギなどのサギ類がねぐらとして利用している。</li> <li>河畔林の林床はサンショウウオ類の生活の場、繁殖場となる。</li> <li>シマヘビ等のヘビ類の餌生物の生息域である。</li> <li>樹林地の林床は森林に生育するカエル類の生活の場、繁殖場となる。</li> <li>ノイバラはイチモンジチョウの成虫の吸蜜植物の1つである。</li> </ul>
			イネ科の草本	オオヨシキリ ホオジロ、カシラダカ ヘビ類 タヌキ、キツネ	<ul style="list-style-type: none"> <li>オオヨシキリ</li> <li>ホオジロ、カシラダカ等の小型のスズメ目</li> <li>シマヘビ等のヘビ類は河川敷に生息するため、草地を隠れ場所や移動する際の空間として利用している。</li> <li>タヌキ、キツネ等の中型哺乳類が、採餌場や繁殖場として利用している。</li> <li>オオヨシキリ、アカメヒシバはジャノメチョウ類の幼虫の食草となる。</li> <li>チガヤは多くのチョウ類の幼虫の食草となる。</li> </ul>
			ツル植物	ヤブガラシ カナムグラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>単一的な環境をつくる傾向がある。</li> <li>カナムグラはタテハチョウ類の幼虫の食草となる。</li> </ul>
			その他の草本	アズマザサ、アズマネザサ オオバクサ メドハギ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘビ類</li> <li>シマヘビ等のヘビ類は河川敷に生息するため、草地を隠れ場所や移動する際の空間として利用している。</li> <li>タヌキ、キツネ等の中型哺乳類が、採餌場や繁殖場として利用している。</li> <li>オオバクサは、冬季に河原に集まる小鳥類の重要な餌となる。</li> <li>メドハギはウラナミシジミなどの幼虫の食草となる。</li> </ul>

表 2-3(3) 下流域・感潮域に生息する主な動植物

環境区分	群落	主な植物	注目種	利用状況	
下流域	人工管理地	果樹園、植栽樹、その他植物	ウマノスズクサ マダケ サギ類 カワラヒワ スギ、ヒノキ キボシアオゴミムシ	・ジャコウアゲハの幼虫はウマノスズクサを食餌植物としている。 ・ダイサギなどのサギ類がねぐらとして利用している。 ・カワラヒワは繁殖場として、スギ・マツなどの針葉樹林を好む。 ・近似種のアトボシアオゴミムシが林縁や林内に生息するのに対し、キボシアオゴミムシは開けた草地や畑に限定して生息場としている。	
		水田など	ウマノスズクサ ヘビ類 サギ類 アマガエル、ニホンアカガエル、 トウキョウダルマガエル タヌキ マガン カシラダカ ゲンゴロウ コイムシ モノアラガイ	・ジャコウアゲハの幼虫はウマノスズクサを食餌植物としている。 ・シマヘビ等のヘビ類がカエル類などの餌生物の採餌場として利用している。 ・サギ類等が餌場として利用している。 ・アマガエル等のカエル類にとって水田は重要な繁殖場であり、比較的湿潤な環境は生育に適している。 ・タヌキが餌場として利用する。 ・マガンは冬鳥として渡来し、水田などを採餌場としている。 ・カシラダカなどの鳥類が餌場として利用している。 ・ゲンゴロウは浅くて、水生植物が繁茂した池沼、水田などを生息場としている。 ・コイムシは主に水田や小川、池沼などの止水域に生息場とし、小動物のほか、モノアラガイなどの巻貝を食べる。 ・モノアラガイは浅くて流れが緩やかな淀みと水生植物が一体となった環境を生息場としており、カモ類やコイ類などの餌となる。	
		人工改変地	ホオジロ	・ホオジロが生活の場としている。	
		開放水面	開放水面	カワセミ類 コクガン マガン、オシドリ	・カワセミ類が採餌場として利用している。 ・コクガンは海を生活の場とする唯一のガン類である。 ・マガンやオシドリなど、水面を休息場として利用している。
感潮域	水際	水辺植生	ガマ マコモ ミクリ ミソソバ ヤナギタデ オオイヌタデ クサヨシ スジグロチャバネセリ	カワセミ類 チョウトンボ ヒヌマイトトンボ	・カワセミが採餌場として利用している。 ・ガマなどの抽水植物群落は水域と陸域の連続性の確保のために重要である。 ・チョウトンボはマコモやガマなど草丈の高い挺水植物がよく繁茂している腐植栄養型の池沼を生息場としている。 ・ヒヌマイトトンボは海岸沿いのヨシやマコモが繁茂する汽水域の湿地や沼を生息場としている。 ・ミクリの生育する環境は止水部であるため、ヤンマ類、カエル類が生息場として利用している。 ・ミソソバ群落は多くのチョウ類が吸蜜のために訪花する。 ・ヤナギタデはヤマトシジミの成虫の訪花植物の1つである。 ・オオイヌタデはイチモンジチョウの成虫の訪花植物の1つである。 ・クサヨシはスジグロチャバネセリの幼虫の食草となる。
		ヨシ原	ヨシ チュウヒ カシラダカ オオヨシキリ パン、ヒクイナ ツルヨシ	チュウヒ類 カシラダカ オオヨシキリ パン、ヒクイナ	・チュウヒはヨシ原を採餌場として利用するほか、冬場には集団でねぐらとして利用する。 ・カシラダカが冬季のヨシ原をねぐらとして利用している。 ・オオヨシキリは休耕田などのヨシ原を繁殖場、採餌場として利用している。 ・パン、ヒクイナなどが繁殖場として利用している。 ・上流域のツルヨシ群落は河川の景観を特徴づける。
	塩沼地	塩沼地植生	アイアシ シオクグ、オオクグ	シギ・チドリ類	・アイアシ群落はヨシ群落とともに、シギ・チドリ類がねぐらや採餌場として利用している。 ・カニ類の生息地となる。
	河川敷	ヤナギ林	ネコヤナギ タチヤナギ、カワヤナギ、 アカメヤナギ	サギ類	・ネコヤナギはコムラサキの幼虫の食草の1つである。 ・ヤナギ類は多くの生物が生息場として利用している。 ・ヤナギ類は洪水などの攪乱に対する適応能力が高く、他の木本類に比べて河川との結びつきが強い。
		その他の樹林	オニグルミ ハンノキ ヘビ類 タゴガエル、ヤマアカガエル ノイバラ	猛禽類 ホオジロ、カシラダカ	・北上川水系では広くみられ、水系を特徴づける群落の1つである。 ・河畔林は猛禽類の餌場、繁殖場となる。 ・ホオジロ、カワラヒワ等の小型のスズメ目が生息の場としている。 ・ハンノキ群落（低木林）は動物の生息場所や林床植物の生育場所として重要である。 ・シマヘビ等のヘビ類の餌生物の生息場である。 ・樹林地の林床は森林に生育するカエル類の生活の場、繁殖場となる。 ・ノイバラはイチモンジチョウの成虫の吸蜜植物の1つである。
			ススキ	ホオジロ、カシラダカ	・ホオジロ、カシラダカ等の小型のスズメ目が採餌場として利用している。
			オヒシバ、アケメヒシバ チガヤ	ヘビ類	・シマヘビ等のヘビ類は河川敷に生息するため、草地を隠れ場所や移動する際の空間として利用している。 ・タヌキ、キツネ等の中型哺乳類が、採餌場や繁殖場として利用している。 ・オヒシバ、アケメヒシバはジャノメチョウ類の幼虫の食草となる。 ・チガヤは多くのチョウ類の幼虫の食草となる。
		その他の草本	アズマザサ オオブタクサ メドハギ	ヘビ類 キツネ、タヌキ	・シマヘビ等のヘビ類は河川敷に生息するため、草地を隠れ場所や移動する際の空間として利用している。 ・タヌキ、キツネ等の中型哺乳類が、採餌場や繁殖場として利用している。 ・タヌキは広範囲に生息するが、主要な生息場所は樹林やその林縁部、川や沼沢などが散在する地域を生息場としている。 ・オオブタクサは、冬季に河原に集まる小鳥類の重要な餌となる。 ・メドハギはウラナミシジミなどの幼虫の食草となる。
	人工管理地	人工草地、裸地、人口公園・グラウンド		ホオジロ	・ホオジロが生活の場としている。
		開放水面	開放水面	カワセミ類 コクガン マガン、オシドリ	・カワセミ類が採餌場として利用している。 ・コクガンは海を生活の場とする唯一のガン類である。 ・マガンやオシドリなど、水面を休息場として利用している。

表 2-3(4) 河口部に生息する主な動植物

環境区分	群落	主な植物	注目種	利用状況	
河 口 部	自然裸地	自然裸地	サギ類、シギ・チドリ類 カウセミ類 カワラハシムシ	・アオサギ、コサギなどのサギ類やイカルチドリなどシギ・チドリ類が繁殖場、生息場として利用している。 ・カウセミ類が繁殖場として利用している。 ・カワラハシムシは河原の砂地に巣穴を掘り、そこに産卵する。	
	水際	ヨシ群落	ヨシ	・チュウヒはヨシ原を採餌場として利用するほか、冬場には集団でねぐらとして利用する。 ・カシラダカが冬季のヨシ原をねぐらとして利用している。 ・オオヨシキリは休耕田などのヨシ原を繁殖場、採餌場として利用している。 ・バン、ヒクイナなどが繁殖場として利用している。	
	塩沼地	アイアシ群集 シオクグ群集 オオクグ群集	アイアシ シオクグ、オオクグ	・アイアシ群落はヨシ群落とともに、シギ・チドリ類がねぐらや採餌場として利用している。 ・カニ類の生息地となる。	
	砂丘	ハマナス群落 コウボウムギ群落 オニシバ群落	ハマナス ハマビルガオ	ヤマトバツタ ヨツモンコムズギコムシ	・ヤマトバツタは海岸の砂地に限って生息場としている。 ・砂地を好む地表徘徊性のコムシなどのコウボウムギ類の生育の場となる。
			ネコヤナギ		・ネコヤナギはコムラサキの幼虫の食草の1つである。 ・ヤナギ類は洪水などの攪乱に対する適応能力が高く、他の木本類に比べて河川との結びつきが強い。 ・ヤナギ類は多くの生物が生息場として利用している。
		その他の樹林	オニグルミ クロマツ アカマツ トビ ヘビ類 タゴガエル、ヤマアカガエル	猛禽類 ホオジロ、カシラダカ カワラヒワ トビ ヘビ類 タゴガエル、ヤマアカガエル	・北上川水系では広くみられ、水系を特徴づける群落の1つである。 ・河畔林は猛禽類の餌場、繁殖場となる。 ・ホオジロ、カワラヒワ等の小型のスズメ目が生息の場としている。 ・カワラヒワは繁殖場として、スギ・マツなどの針葉樹林を好む。 ・繁殖期以外はアカマツなどの樹林で集団ねぐらを形成する。 ・シマヘビ等のヘビ類の餌生物の生息場である。 ・樹林地の林床は森林に生育するカエル類の生活の場、繁殖場となる。 ・ノイバラはイチモンジチョウの成虫の吸蜜植物の1つである。
		イネ科の草本	オギ、ススキ オヒシバ、アキメヒシバ チガヤ	オギ、ススキ ヘビ類 キツネ、タヌキ ホオジロ、カシラダカ ハマハサミムシ	・オギ、ススキなどの高茎イネ科草本は、他の草本に比べて、小鳥類にとって冬季のねぐら、餌場などの利用価値が高い。 ・シマヘビ等のヘビ類は河川敷に生息するため、草地を隠れ場所や移動する際の空間として利用している。 ・タヌキ、キツネ等の中型哺乳類が、採餌場や繁殖場として利用している。 ・ホオジロ、カシラダカ等の小型のスズメ目が採餌場として利用している。 ・ハマハサミムシなどの徘徊生の地表昆虫類は石やゴミの下、落ち葉の下などでよく見られる。 ・オヒシバ、アキメヒシバはジャノメチョウ類の幼虫の食草となる。 ・チガヤは多くのチョウ類の幼虫の食草となる。
		その他の草本	オオブタクサ メドハギ	ヘビ類 キツネ、タヌキ	・シマヘビ等のヘビ類は河川敷に生息するため、草地を隠れ場所や移動する際の空間として利用している。 ・タヌキ、キツネ等の中型哺乳類が、採餌場や繁殖場として利用している。 ・オオブタクサは、冬季に河原に集まる小鳥類の重要な餌となる。 ・メドハギはウラナミシジミなどの幼虫の食草となる。
	人工管理地	マダケ植林	マダケ	サギ類	・ダイサギなどのサギ類がねぐらとして利用している。
		人工裸地		ホオジロ	・ホオジロが生息の場としている。
開放水面	開放水面		カウセミ類 コクガン マガン、オシドリ	・カウセミ類が採餌場として利用している。 ・コクガンは海を生活の場とする唯一のガン類である。 ・マガンやオシドリなど、水面を休息場として利用している。	

## 2-3 特徴的な河川景観や文化財等

### (1) 特徴的な河川景観

北上川は、石川啄木や宮沢賢治<sup>みやざわけんじ</sup>などの詩人に愛された大河であり、広い川幅を持つ本川から渓流を呈する支川まで多様な河川景観を有している川である。支川でも奥羽山脈側の渓流と北上高地側ではその様相も異なり、奥羽山脈側では磐井川の巖美溪、江合川の鳴子峡が代表的であり、北上高地側では猯鼻溪が挙げられる。北上川本川では、多くの観光客が訪れる展勝地公園、凝灰質の泥岩が特徴的なイギリス海岸などが挙げられる。

出典：岩手県 HP

出典：岩手河川国道事務所資料



イギリス海岸

宮沢賢治が「イギリスあたりの白亜の海岸を歩いているような気がする」といって名付けられた。

出典：岩手河川国道事務所資料



巖美溪

栗駒山を源に流れる磐井川が巨岩を侵食し、おう穴・滝・深淵と表情を変え 2km にわたり渓谷美を見せる。

出典：宮城県 HP



鳴子峡

石英粗面岩質凝灰角礫石の台地が浸食された長さ 4km の峡谷。崖の高さは 80m ~ 100m で幅は狭い所で 10m、広い所では 100m の U 字谷になっており、奇岩怪石がそびえ立っている。



展勝地公園

北上川に沿い、珊瑚橋のたもとから「桜名所百選」に選ばれた約 2km の桜並木が続く。



出典：岩手県 HP

猯鼻溪

古生代にできた石灰岩の厚い地層が砂鉄川の水の浸食を受けてできた峡谷。100m 程の高さの断崖や絶壁で囲まれ、ところどころに白糸状の滝がかけ、鍾乳洞が開口している。

出典：北上川・鳴瀬川写真コンクール



ヨシ原群生地

ヨシ原の大群落が開放的な空間をつくりだし大自然の囁きを醸しだす。冬には昔ながらのヨシ刈りが行われ、風物詩になっている。

図 2-3 北上川流域の特徴的な河川景観

## (2) 文化財・史跡

北上川流域で発掘された遺跡から、約 10,000 年前の縄文時代から人々が生活を営んでいたことが明らかになっている。北上川と人々の関わりも古く「続日本書紀」には比較的安定した北上川の流れを利用した北上川の舟運に関する記載もある。平安時代には舟運の起点として適し、さらに奥地に通ずる陸路の起点でもあった平泉を中心として、奥州藤原文化を代表とする東北独特の文化圏が形成された。江戸時代に入ると北上川の豊富な水量により穀倉地帯をつくり、北上川を水上交通の大動脈として収穫した米を下流及び江戸へ運搬した。このように、北上川は古くから地域を結び、文化と歴史を育んでいたことから流域には多くの文化財、史跡が残されている。

北上川流域に残る文化財の代表的なものとしては中尊寺金色堂をはじめ奥州藤原文化の中心地であった平泉町には重要文化財が数多く指されている。



図 2-4 北上川流域の主な文化財 位置図

表 2-4 北上川流域の主な文化財

指定	名称	種別	所在地	概要
国宝	中尊寺金色堂	建造物 (寺社建築)	平泉町平泉字衣閤	1124年奥州藤原氏初代清衡により建立。漆、金、夜光貝、宝石を存分に使って仕上げた精緻華麗な阿彌陀堂建築である。
国指定 重要文化財	旧中村家住宅	建造物 (民家建築)	盛岡市愛宕町 ：盛岡市中央公民館	藩政末期の完成された典型的な町屋建築である。
	旧佐々木家住宅	建造物 (民家建築)	盛岡市上田字松屋敷 ：岩手県立博物館(元岩泉町)	岩手県北部の農家として、平面、構造ともに古い形式で旧状をよくとどめている貴重な遺構である。
	旧藤野家住宅	建造物 (民家建築)	盛岡市上田字松屋敷 ：岩手県立博物館(元江刺市)	構造上、上屋と下屋の区分があり、その発達を知る上にも貴重な遺構である。
	旧菊池家住宅	建造物 (民家建築)	遠野市土淵町	盛岡藩特有の曲家形式で、標準的な規模を持ち、曲家の発生過程をつかがうことのできる貴重な遺構である。
	旧小原家住宅	建造物 (民家建築)	花巻市東和町谷内	古い時期に直家から曲家に改造されたもので、曲家の発生過程を窺うことのできる貴重な遺構である。
	伊藤家住宅	建造物 (民家建築)	花巻市東和町田瀬	曲家の中で最も小規模のもの1つで、岩手県南部の農家として平面、構造とも古形式を持ち、旧状をよく留めている貴重な遺構である。
	千葉家住宅主屋	建造物 (民家建築)	奥州市江刺区稲瀬字伊加里	もとは茅葺きであり、西方上手を寄棟造、東方下手を入母屋造とし、屋根の形状に特徴がある。
	旧後藤家住宅	建造物 (民家建築)	奥州市江刺区岩谷堂字向山	仙台藩直家の典型的な遺構である。
	旧菅野家住宅	建造物 (民家建築)	北上市黒沢尻町字立花	岩手県南部旧仙台藩領の典型的平入り、直屋の農家であり、薬医門を表門とするところから往時はかなり高い格式を保持していたものと考えられる。
	岩手大学農学部日本館 (旧盛岡高等農林学校)	建造物 (近代建築)	盛岡市上田3丁目18番8号	日本館は、明治期に設置された国立の専門学校の中心施設の現存する数少ない遺構のひとつであり、改造が少なく保存状態も良好で、わが国の学校建築の歴史を知る上で貴重な建物である。
	岩手銀行(旧盛岡銀行) 旧本店本館	建造物 (近代建築)	盛岡市中ノ橋通	岩手銀行旧本店本館は、辰野金吾が設計した建築としては東北地方に残る唯一の作品であり、煉瓦と石材で表現した外観などに辰野の作風をよく示しており、角地という敷地条件を活かした象徴的な構成も優れている。ランドマークとしての近代建築保存のモデルケースとしても注目すべき建物である。
	旧登米高等尋常小学校校舎	建造物 (近代建築)	登米市登米町寺池桜小路6	木造2階建、素木造、瓦葺屋根の校舎で、旧来の和風の特徴を保ち擬洋風建築としての和洋がよく調和している。
	石井閘門	建造物 (近代建築)	石巻市	北上運河の起点(旧北上川との分岐点)に水位調節のため建造された煉瓦閘門である。明治政府が東北地方開発の拠点として建設を進めた野蒜築港事業の代表的遺構として重要である。
	正法寺	建造物 (寺社建築)	奥州市水沢区黒石町字正法寺	東北地方における曹洞宗随一の名刹として広く信仰を集めている。
	日高神社本殿	建造物 (寺社建築)	奥州市水沢区日高小路	岩手県下では、江戸時代前期まで遡ることのできる数少ない神社本殿である。作りも優秀で、幕股、台輪、庇頭貫などに特色ある形式がみられ、岩手県の神社建築の歴史を知るうえで貴重である。
	毘沙門堂	建造物 (寺社建築)	花巻市東和町北成島	中世に遡る数少ない遺構であり、価値が高い。
	願成就院宝塔	建造物 (寺社建築)	平泉町平泉字衣閤	造立時も明確ではないが、低い基礎石の上に低い塔身をのせ、笠石の薄い軒と反り、宝珠の形等から平安時代後期の作と考えられる。
	釈尊院五輪塔	建造物 (寺社建築)	平泉町平泉字衣閤	台座側面に「仁安四年(1166) 丑四月二十三日」の刻銘があり、我国在銘最古の五輪塔として貴重である。
	大長寿院経蔵	建造物 (寺社建築)	平泉町平泉字衣閤	金色堂の西北に隣接し、「中尊寺供養願文」によって天治3年(1126)頃の建物と推定される。
	中尊寺金色堂覆堂	建造物 (寺社建築)	平泉町平泉字衣閤	国宝・金色堂を風雨から守るために築かれた覆堂である。現在の覆堂は建物の性質からみて極めて簡単な構造、意匠であり、特徴の少ない建物であるが、その軒や斗拱の細部手法からみて室町時代中期頃を遡らないものと推定される。
多聞院伊澤家住宅	建造物 (寺社建築)	北上市和賀町岩沢	多聞院伊澤家住宅は、里修験の数少ない遺構であり価値が高い。	
深鉢形土器	考古資料	盛岡市繫小学校保管	雄大な渦巻文を胴部に描く深鉢形土器2箇を含み、東北地方の縄文時代中期を代表する遺品である。	
金色堂須弥壇内納置棺及び副葬品	考古資料	平泉町平泉字衣閤	藤原清衡・基衡・秀衡の三代の棺とその副葬品で、いずれも平泉文化を解明する上で貴重な資料である。	
岩版	考古資料	石巻市住吉町1-8-29	白灰色凝灰岩の表裏に、美しい雲形状の文様を彫り刻んだもので、文様は、縄文時代晩期の土器と共通しており、同じ時期のものとして推定される。	
米川の水かぶり	風俗慣習	登米市東和町米川	2月の初午に行われる火伏せの行事で、厄年の男達を中心となり藁製のオシメという装束とアタマという被り物を付け顔に鍋墨を塗った一団が、通りの家に水をかけながら町中を南から北に走り抜ける。装束の藁は屋根に載せると火伏せや、魔除けになるといわれている。	

北上川流域における史跡としても、奥州藤原文化の中心地であった平泉町には数多く存在し、この他、北上市近辺の古墳群、盛岡周辺には城跡、宮城県側には貝塚が多く見られ、古くから人々が文化を形成していたことがわかる。



図 2-5 北上川流域の主な史跡 位置図

表 2-5 北上川流域の主な史跡

指定	名称	種別	所在地	概要
国指定 重要文化財	毛越寺跡・附鎮守社跡	特別史跡	平泉町平泉字大沢	奥州藤原氏の時代の建造物は金堂円隆寺のほか常行堂・二階惣門・鐘楼・経蔵をはじめ吉祥堂・千手堂・嘉祥寺・観自在王院など堂塔409宇、禅房500余宇あったといわれるが、そのすべては失われた。現在は礎石及び庭石等が残っていて往時の伽藍配置をしはせる。
	中尊寺境内	特別史跡	平泉町平泉中尊寺	中尊寺は平泉町の北端、衣園にあり、境内は閉山と呼ぶ丘陵全域を占めている。
	無量光院跡	特別史跡	平泉町平泉字花立	無量光院は3代藤原秀衡が建立したもので、別に新御堂とも称した。
	盛岡城跡	史跡	盛岡市内丸	北上川東岸と中津川の北岸にある丘陵を利用して構築した南部氏の居城であり、城郭は本丸、二の丸、三の丸その他の曲輪からなり、本域を囲む石垣は盛岡産の花崗岩で積み上げられ見事な石畳美を作っている。
	志波城跡	史跡	盛岡市太田	志波城は、陸奥国最北端の城柵として我が国古代史上著名なもの1つであり、平安時代初期における東北経営の実態を知る上で欠くことのできない重要な遺跡である。
	胆沢城跡	史跡	奥州市水沢区佐倉河字洪田	鎮守府が多賀国府から移され、東北辺境開拓の中核となった史上貴重な遺跡である。
	禪山遺跡	史跡	北上市稲瀬町字大谷地字水越	北上川東岸の標高100m前後の西南に傾斜する丘陵上にある縄文時代中期～後期にかけての遺跡で、配石遺構(ストーンサークル)および竪穴住居跡群が発見され、類例のない貴重な遺跡である。
	八天遺跡	史跡	北上市更木町字更木	北上川に突出した舌状台地の先端に位置する縄文時代中期末から後期にかけての集落跡で住居の柱穴群と貯蔵穴状の土壇群である。
	柳之御所遺跡	史跡	平泉町平泉字柳御所	岩手県平泉町の中心地域の東北部、北上川に面した台地上にあり、武士社会成立過程における東北地方の支配拠点の様相を具体的に知る上で重要な遺跡である。
	角塚古墳	史跡	奥州市胆沢区南都田	現存する県内最大でもっとも古い古墳であり、また、埴輪を有する前方後円墳では県内唯一で、我が国最北のものである。
	徳丹城跡	史跡	矢巾町徳田	徳丹城は、鎮守府胆沢城の最北前衛基地としての機能をもった史上貴重な遺跡である。
	江釣子古墳群	史跡	北上市江釣子・北上市和賀町	横穴式積石をもつ古墳時代後期後半の円墳群で、東北地方北端の群集墳として重要である。
	南部領伊達領境塚	史跡	北上市、金ヶ崎町	境塚そのものは各地にみられるが、全国に類を見ない大規模な境界施設であり、徳川幕府草創期からの東北地方の政治的緊張状況を示す貴重な遺跡である。
	高野長英旧宅	史跡	奥州市水沢区字大畑小路	高野長英の誕生した旧宅で長英の居室であった階下の8畳と6畳の2室は、今なお当時のまま保存されている。
	仙台藩 花山村寒湯番所跡	史跡	栗原市花山字本沢温湯	仙台藩領から秋田藩雄勝郡に通ずる「花山越え」の要衝に置かれた仙台藩の関所。幕末の建築であるが関所遺構として残存するのは全国的にもめずらしい例であり、きわめて貴重なものとされている。
	黄金山産金遺跡	史跡	遠田郡涌谷町涌谷字黄金山ほか	延喜式内社黄金山神社一帯が遺跡である。奈良時代の瓦とともに数個の礎石跡が検出され、産金を記念した六角堂と思われる仏堂が建てられていたことが判明した。
	長根貝塚	史跡	遠田郡涌谷町小里字長根北ほか	宮城県内有数の規模をもつ「U」字形の貝塚である。縄文時代の内陸部での漁撈活動や集落を研究する上で重要な意義を持っている。
	旧有壁宿本陣	史跡	栗原市金成有馬字有壁本町	奥州街道の金成宿と一の関宿の中間に位置する。延享元年本町が全焼したので旧位置から現在の場所に移し、参勤交代の奥州諸大名や幕府・仙台藩の巡見使などが休息宿泊に利用した。
	山王困遺跡	史跡	栗原市一迫真坂字山王ほか	縄文時代晩期～弥生時代中期にかけての遺物が層位的に良好な状態で認められ、縄文文化を解明する上で大変貴重な資料となっている。
	沼津貝塚	史跡	石巻市沼津字出外ほか	出土品のうち骨角製の釣針・鉾などの漁具や櫛・垂飾品などの装身具、縄文土器などには優品が多く、重要文化財に指定されている。
	木戸瓦窯跡	史跡	大崎市田尻沼部字の場ほか	多賀城創建のころ、多賀城から40kmほど離れたこの大崎平野に、律令政府による郷里制および軍団制がすでに施行されていたことを示す、極めて興味深い資料である。
	宮沢遺跡	史跡	大崎市古川宮沢字愛宕山ほか	奈良時代～平安時代の城柵・官衙遺跡である。東北地方のこの種の遺跡の中では最大規模。外郭区画施設は築地や土塁で位置をわずかに変えながら造り替えられており、櫓も所々に設けられている。
	中沢貝塚	史跡	大崎市田尻蕪栗	出土遺物には骨角貝製品があり、特に内陸部の貝塚としては数の多い装身具、土面、さらに石鏃を固定したままの根椀の発見は貴重である。
	出羽仙台街道中山越	史跡	大崎市鳴子温泉字尿前	奥州街道吉岡宿から分かれて、中新田、岩出山、鳴子を経て出羽に至る峠越の道である。現在は環境整備により古道などが復原され、訪れる多くの人々に親しまれている。
	伊治城跡	史跡	栗原市築館字城生野	古代東北地方の城柵官衙遺跡で、律令政府による古代陸奥国経営の重要拠点の一つである。東北地方における古代律令体制の成立や官衙の構造を具体的に知る上で極めて重要である。
	毛越寺庭園	特別名勝	平泉町平泉字大沢	毛越寺庭園は国内に現存する平安様式の庭園のうち最も完全な浄土庭園の遺構として唯一のもので、日本文化史あるいは造園史上きわめて重要な文化遺産である。
	狢鼻溪	名勝	一関市東山町長坂字町裏	狢鼻溪は、古生代にできた石灰岩の厚い地層が砂鉄川の水の浸食を受けてできた峡谷である。
	巖美溪	名勝及び 天然記念物	一関市巖美町	北上市の支流、栗駒山(須川岳)に源を発する磐井川が岩を削ってつくりだした渓谷である。
	旧有備館及び庭園	史跡及び名勝	大崎市岩出山字上川原町ほか	素木造の瀟洒な建物で、玄関構や床欄書院のしつらえ、欄間・戸障子など素朴なうちに洗練されたものがある。大名庭園型の池を中心とした迴遊式庭園で、建物とよく調和した宮城県内稀に見る名園である。

### (3) イベント・観光

北上川流域には、北上川の水面及び高水敷きを利用した夏祭りやイベントが数多く開催されている。春季は特に北上市の展勝地公園の桜が有名であり、各地から観光客が訪れる。夏季は花火大会が各地で開催される他、ボート大会など水面を利用したイベントが多数開催される。冬季には白鳥が飛来し、訪れた人の目を楽しませる。また北上川沿いの道路を利用したマラソン大会が開催されるなど、1年を通して北上川周辺は憩いの場として利用されている。

観光地としては、宮沢賢治が「イギリスあたりの白亜の海岸を歩いているような気がする」といって名づけたイギリス海岸や、多様な施設が集まり1年を通して楽しむことができる展勝地公園、

源<sup>みなもとのよしつね</sup>義<sup>ただち</sup>経<sup>ぎけいどう</sup>最期の地とされる高館の義経堂等が挙げられる。



図 2-6 北上川流域のイベント・観光

表 2-6 北上川流域のイベント・観光

項目	名称	市町村	概要	備考
桜祭り	北上展勝地さくらまつり	北上市	北上川沿い約2kmの桜並木に観光馬車、川面には観光遊覧船と渡し舟が往来し300匹の鯉のぼりが空を泳ぐ。	
	登米さくら堤	登米市	北上川沿いの国道342号には、約1kmにわたり77本の桜の木が道路の両側に並木をつくり桜のトンネルとなり、人々を魅了。北上川上からさくらを眺める「さくらクルージング」も行われている。	
	釣山公園	一関市	小高い丘をの公園の夜桜はぼんぼりが点灯され遠目にも優雅なたたずまいである。	磐井川
	涌谷桜まつり	涌谷町	涌谷城のある城山公園を中心に町内およそ二千本桜が咲き誇り、桜の下では民謡大会や郷土芸能大会などの催しが行われます。期間中は城山公園の桜並木がライトアップされ春の宵の幻想的なシーンが映し出されます。	江合川
	日和山公園の桜・ツツジ	石巻市	下に石巻市街と北上川、遠くは松島・蔵王を望み、春は400本の桜、初夏は460株のツツジに彩られる。芭蕉・曾良像が建っている。	旧北上川
	夏祭り (花火大会)	盛岡花火の祭典	盛岡市	郡南大橋下流の北上川河川敷で開かれる盛岡地区で一番大きな花火大会。勇さを誇る伝統の郡南太鼓の披露など花火以外にも催し物が行われる。
イーハトーブフォーラム		花巻市	宮沢賢治の精神を次代の子供たちに伝えることを願い始まった夏のイベント。「光と音のページェント」と銘打った花火大会等多彩な催しが行われる。	
北上・みちの芸能まつり 「トロッコ流しと花火の夕べ」		北上市	1万個のトロッコ(灯ろう)が北上川を流れ、その上空には連りすくりの花火師による1万発を超える花火が打ち上げられる。	
紫波夏まつり		紫波町	紫波運動公園をメイン会場に、盆踊り大会やさんさ踊り大会等が行われる。夜には花火大会の他、郷土芸能や金山太鼓の演奏なども披露される。	
石鳥谷夢まつり		花巻市 (旧石鳥谷町)	未来へ夢を託す花火大会をメインにゆく夏を惜しむかのように華麗に開催される。	
水沢の花火大会		奥州市 (旧水沢市)	岩手県下有数の打ち上げ花火が夏の夜を彩る。	
一関夏まつり		一関市	大型七夕に連りて彩られ、その中を「くるくる踊り」などのパレードが続ぎ磐井川開き花火大会が開催される。	磐井川
前沢町夏まつり		奥州市 (旧前沢町)	厄年連による踊りの披露のほか、やぐらを中心にした盆踊り等を行う。花火大会はスターメイン等約3,800発の花火が真近で見える。	
平泉大文字まつり		平泉町	戦没者の追善、先祖代々の精霊供養のために開催しています。中尊寺の不滅の法燈からトーチに分火し、法火リレーをしながら東福山駒形峠にて大文字送り火を行ないます。また、北上川河川敷では花火が打ち上げられる。	
ちゃっこい村のでっかい花火大会		一関市 (旧川崎村)	二尺玉や水中花火など約9,000発の花火が夏の夜空を彩り、川面を照らす。	
みやぎ北上連邦 サマーフェスティバル米谷の花火		花巻市 (旧東和町)	昼のイベントをはじめ、夜には尺玉が多数上がる花火大会も楽しめる。	
和瀬夏まつり	石巻市 (旧河南町)	大人も子供も楽しめるイベントが盛りだくさん。祭のラストをかざる灯ろう流しでは旧北上川と江合川の合流地点から流した灯ろうが幻想的で美しい。	旧北上川	
石巻川開き祭り	石巻市	北上川を仙台藩主伊達政宗公の命を受け改修した川村孫兵衛翁に感謝する行事。1日目の川開きは花火がメインで200mに及びナイアガラをはじめ大型仕掛花火・水中スターメインなど約1万5千発の花火が打ち上げられ、川面を豪華に彩る。2日めには陸上パレード、大漁おどり、お祭り広場、アクアカーニバルなどのイベントが行われる。また旧北上川をコースとした孫兵衛船競漕が2日間にわたり行われる。	旧北上川	
その他 イベント	北上川ゴムボート川下り大会	盛岡市	盛岡市内を流れる北上川を、総合・混合・女子・親子及び団体の5部門に分かれ、巧みな縦さばきにより2人乗りのゴムボートを操り、約7kmのコースのタイムレースである。1500組のボートが声を掛け合いながら懸命にゴールを目指す様は壮観そのもの。パフォーマンス部門やフリーレース部門もある。	
	舟ッコ流し	盛岡市	提灯や盆の供物で飾った舟に火を放ち、川に流す。祖先の霊を送り、無病息災を祈る送り盆の行事である。	
	アテルイ杯 北上カヌー・ゴムボート川下り大会	奥州市 (旧水沢市)	水沢市桜木橋の北上川を出発点に行われ、カヤック(9km・24km)、ゴムボート(9km)、ゴムボートオープン参加の4種目に分かれ、タイムを競う。	
	北上川流域交流Eボート大会	一関市 (旧川崎村)	北上川流域の交流と連携を目的とし、全国各地から約100チーム1000人が集まる。子どもでも乗れるボートを使い110人1チームでタイムを競う。川の流れに左右され、毎年珍走、快走、迷走、激走と数々のドラマを生む。	
	北上川フェア	石巻市	北上川とふれあうことによって、北上川の果たす役割への理解促進と河川愛護を目的とした市民手づくりの祭り。北上川クルージング、各種ステージイベント、ゲーム大会、魚のつかみどりなどが催される。	旧北上川
	凧上げ大会	登米市 (旧登米町)	数々の凧上げ競演。	
	みやぎ北上連邦カップハーフマラソン	登米市 (旧登米町)	マラソンハーフ、10km、5km、3km、2km(ペア)の北上川沿いの平坦コース。	
	みやぎ北上連邦川下りレース	登米市 (旧中田町)	北上川を舞台に「ラブリパー精神」でゴムボートで北上川を6km下り、その後300m走り、さらに3kmの自転車レースでタイムを競う。参加者の衣装も見もの。	
	新古里マラソン	石巻市 (北上町)	にっこり(新古里)のふる里、北上川沿いの美しい自然を楽しみながら走れるマラソン。特産品販売もある。種目は10種目あり、小学生より参加可能。	
	東北鞍馬競技大会	涌谷町	涌谷城下の河川敷において東北各地から数十頭の馬が集まり、人馬一体となって砂塵を上げて競い合います。昭和25年の第1回開催以来、桜まつりとともに東北の風物詩のひとつとして毎年催されています。	江合川
	石巻シーサイドマラソン大会	石巻市	コースは市内中心部から北上川沿いを通り太平洋へ。種目は19種あり全国の誰でも参加できる。	
白鳥飛来地	土橋地区	矢巾町	毎年12月になると白鳥が約250羽飛来する。	
	新堤/珊瑚橋	北上市	新堤周辺と珊瑚橋周辺に白鳥が10月下旬頃から飛来し、翌年4月頃まで滞在。例年1,000羽を超える白鳥が越冬し、訪れる人々を和ませてくれる。飛来数は、岩手県一である。	
	赤石堤	金ヶ崎町	秋も深まったころ、赤石堤に白鳥がやってきます。12月末には約200羽ほどの群れになり多くのカモ類と春先まで飛来している。	
	北上川	石巻市 (北上町)	300羽が冬に飛来	
観光等	北上川源泉・弓張の泉	岩手町	義家が弓張を持って岩にさしたところ、泉がこんこんと湧き出たとわれ、その泉は今なお湧き出でて北上川の源泉となっている。	
	イギリス海岸	花巻市	北上川と瀬川の合流点付近に位置し、凝灰質の泥岩が川に沿って露出している。現在はあまりその姿を現さないが、湧水期には時々見ることができる。	
	展勝地公園	北上市	珊瑚橋のたもとから桜名所百選に選ばれた約2kmの桜並木が続く。園内には1万本の桜と10万本のツツジがあり訪れる人々を喜ばせる。また南部藩の米蔵を模したレストハウス、北上夜曲の歌碑、北上川の入江には復元された南部藩船の大型帆船、歴史的建造物約30棟を移築復元した「みちのく民俗村」等、一年を通して楽しめる。	
	高館地区(義経堂他)	平泉町	高館は中尊寺の東方にある丘陵で、判官館とも呼ばれています。現在ではその半ばを北上川に浸蝕されて狭くなっていますが、この一帯は清衡の時代から絶好の要害地とされていた。	
	錦波洗堰	登米市 (旧豊里町)	北上川分起点で旧北上川にかかる景勝の地。明治43年に計画、大正5年2月に着工、昭和7年に竣工した北上川と旧北上川の分流施設で、当時の内務省の直接工事として完成した。明治以降、大河川において堰を使った大規模な分水の事例は少なくまた自然流下により一定流量を分水するオリフィス式に越流部を併せ持つ構造の堰は全国的にも貴重で価値のある構造とされている。	
	北上川のヨシ原	石巻市 (旧北上町) (旧河北町)	ヨシ原の大群落が開放的な空間をつくりだし大自然の囁きを醸し出す。冬には昔ながらのヨシ刈りが行われ、風物詩になっている。	
	巻石	石巻市	石巻の地名の起源となったところと伝えられており、北上川の流れが渦を巻いたことからこの名がついたと言われている。	旧北上川
	北上川・運河交流館	石巻市	国内外の運河情報を映像やコンピュータで分かりやすく解説する運河専門館。展望スペースは旧北上川を見渡しながらくつろげる開放的な空間となっている。	旧北上川
	石ノ森美術館	石巻市	旧北上川の中瀬に、マンガによる地域文化の発信拠点、市民交流の場として整備された施設。JR石巻駅から美術館までの約1kmはマンガロードとして整備され、街の各所で石ノ森キャラクターに出会うことができる。	旧北上川
	住吉公園	石巻市	旧北上川西岸に面し大島神社を中心とした公園で、歌枕「袖の渡り」の地としても知られる。北上川を挟んで対岸の風景、内海橋から河口付近の風景を眺めることができる景勝地。近くには旧毛利邸・毛利コレクション等の文化財が集中している。	旧北上川

## 2-4 自然公園等の指定状況

北上川流域の自然公園等の指定状況は、北上川を挟んで東側の北上高地側と西側の奥羽山脈側に多く分布する他、北上川沿いには環境緑地保全地域が点在する。また、下流域の平野地域ではラムサール条約に指定されている伊豆沼・内沼、蕪栗沼が存在する。

自然公園の指定面積は国立・国定公園 38,035ha、県立自然公園 23,916ha、国指定の自然環境保全地域 2,821ha、県指定では 3,217ha、緑地環境保全地域は 4,461ha であり、全体で 72,468ha(流域外も含む)となり、北上川の流域面積の約 8%程度を占めている。



図 2-7 北上川流域の自然公園

表 2-7 北上川流域の自然公園

指定項目	名称	関係市町村	面積 (ha)	特質
国立公園	十和田八幡平	八幡平市/雫石町/滝沢村	18,015	温泉/高山植物
国定公園	栗駒	北上市/西和賀町/金ヶ崎町 /奥州市/大崎市/栗原市	14,575	眺望/ブナの原生林
	早池峰	遠野市/花巻市	5,463	蛇紋岩植生/高山植物
岩手県立自然公園	花巻温泉郷	花巻市	1,587	温泉/豊沢湖/自然探勝/野外活動
	外山早坂	盛岡市	9,333	岩洞湖/姫神山
	湯田温泉峡	西和賀町	1,534	温泉/錦秋湖
	室根高原	一関市	1,495	スカイスポーツ/国民休養地
宮城県立自然公園	硯上山万石浦	石巻市/女川町	9,933	眺望/イヌブナ等自然林/シロダモ
	旭山	石巻市	34	眺望/レクリエーション
自然環境保全地域 (国)	早池峰	川井村	1,370	蛇紋岩植生
	和賀岳	西和賀町	1,451	ブナの原生林
自然環境保全地域 (岩手県)	琴畑湿原	遠野市	17	低層湿原
	松森山	八幡平市	8	アカマツ林
	荒川高原	遠野市	281	シャクナゲ群落/溪流
	滝観洞	住田町	50	石灰洞
	区界高原	盛岡市/川井村	550	残丘/シラカバ等の樹林/草原
	大洞カルスト	遠野市	250	カルスト地形
	蓬来山	奥州市/一関市	300	蛇紋岩植生
	青松葉山	岩泉町/川井村	163	アオモリトドマツ林
	檀取湿原	岩泉町	277	中間湿原
	春子谷地	滝沢村	38	低層湿原
	自然環境保全地域 (宮城県)	伊豆沼・内沼	栗原市/登米市	559
一捨山・田代		大崎市/栗原市	615	ブナ林/ハルニレ林
籠岳山		涌谷町	35	スギの巨木
御嶽山		栗原市	50	アズマシャクナゲ
鱒淵観音堂		登米市	24	落葉広葉樹/ゲンジボタル
緑地環境保全地域 (岩手県)	森山工業団地	金ヶ崎町	323	植生保護/緑地造成
	国道4号線及び282号線沿線	盛岡市/滝沢村	22	沿道の樹林地
	北上工業団地	北上市	150	植生保護/緑地造成
	正法寺及び黒石寺	奥州市	140	歴史的な自然環境
	東八幡平観光施設団地	八幡平市	380	植生保護/緑地造成
	網張観光施設団地	雫石町	180	植生保護/緑地造成
	胡四王山	花巻市	90	歴史的な自然環境
	国見山	北上市	245	歴史的な自然環境
	蘭梅山	一関市	35	歴史的な自然環境
緑地環境保全地域 (宮城県)	加護坊・籠岳山	大崎市/涌谷町	2,896	眺望/遺跡
ラムサール条約	伊豆沼・内沼	栗原市/登米市	559	特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地
	蕪栗沼	大崎市	423	特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地

北上川流域の天然記念物としては、盛岡地方裁判所前に樹齢およそ 400 年と言われる石割桜があり、名称どおり巨大な花崗岩を割るように生えている。また、岩手山麓には溶岩流が全豹を留めている焼走り溶岩流がある他、宮城県側の下流域にはウグイの生息地、ゲンジボタル生息地などが存在する。

出典：岩手県 HP



焼走り溶岩流

噴出時期が明らかで、噴出後現在まで樹木の生育を見ず、全貌を留めているのは稀である。

出典：岩手県 HP



石割桜

巨大な花崗岩の割れ目に成育した樹齢およそ400年ほどのヒガンザクラである。

出典：宮城県 HP



伊豆沼・内沼の鳥類およびその生息地

ハクチョウ、マガン、ヒシクイ、ハクガン、オナガガモ等多くの種類がみられ、学術的にきわめて貴重であり、観光的にも有名である。

出典：宮城県 HP



横山のウグイ生息地

大徳寺境内の池に生息しているウグイは不動尊のお使いとされ、参詣者から餌を与えられ愛護されてきた。



● 主な天然記念物の位置

図 2-8 北上川流域の主な天然記念物 位置図

表 2-8 北上川流域の主な天然記念物

指定	名称	種別	所在地	概要
国指定 重要文化財	大揚沼モリアオガエル およびその繁殖地	特別 天然記念物	八幡平市第1地割字沼利36	大揚沼は面積、凡そ1.7haほどで沼の周囲には湿原が発達している。モリアオガエルは、産卵期（6月中旬～7月上旬頃）池沼の水面に張り出した枝まで登り、小枝と葉の上に産卵するという奇習を持つ。
	早池峰山及び薬師岳の 高山帯・森林植物群落	特別 天然記念物	花巻市大迫町内川目、遠野市附馬 牛町附馬牛、下閉伊郡川井村門馬	早池峰山の植物相の特色は、蛇紋岩山地特有の植物をはじめ、数々の貴重な因子を含む乾性植物群落が発生していること、他の地域ではすでに絶滅したものも残存していることなどがあげられる。このようなことから早池峰山は固有の種、分布上の南限とするもの、分布上の稀品種など植物分布上貴重な種を多数包蔵している。また、薬師岳は、花崗岩質の緩やかな山体からなり、早池峰山とは明瞭な相違が見られる。
	シダレカツラ	天然記念物 (植物)	盛岡市肴町・盛岡市門・盛岡市 大ヶ生	シダレカツラは、カツラの変種として珍稀である。原木は約300年前、大迫町内川目の山中で発見され岳の妙泉寺境内に移植。後にそのヒコバエを龍源寺境内に移植したが、天保初期には寺の補修材を兼ねて伐採。現存するシダレカツラはそのヒコバエが成長したもので、龍源寺以外の2株は、さらにそのヒコバエを移植したものである。
	花輪堤ハナショウブ群	天然記念物 (植物)	花巻市西宮野目第5地割君が沢	指定地域は約16700平方メートルの湿原で、ここにノハナショウブが群生している。花輪堤のハナショウブは、青色を帯びた紫・紫・赤みがかった紫などの花の色に変化が見られ、代表的群落地として貴重である。
	石割桜	天然記念物 (植物)	盛岡市内丸	巨大な花崗岩の割れ目に成育した樹齢およそ350年ほどのヒガンザクラである。ヒガンザクラは、エドヒガンあるいはアズマヒガンとも呼び、ヒガン系サクラの代表種で、サクラの中では最も寿命が長い。
	竜谷寺のモリオカシダ	天然記念物 (植物)	盛岡市名須川町	大正9年（1920）故三好学が同寺で発見し、発見地の名前をとってモリオカシダレと名付けられたシダレザクラの一種である。本種は、枝垂性のヒガンザクラとオオシマザクラ系のサトザクラの交配によってできたものと推定されている。
	早池峰山のアカエゾマ ツ自生南限地	天然記念物 (植物)	川井村門馬早池峰山国有林内	アカエゾマツ自生地は、本州唯一で南限分布地というばかりでなく、絶滅したと思われていたアカエゾマツの遺存種という意味も含めて学術上貴重な存在である。
	カズグリ自生地	天然記念物 (植物)	花巻市東和町上小山田	このクリは、花穂全部に雌花をつけるという変わった着花習性を持つ。本来、クリの花穂は、基部に雌花がつく以外は、全て雄花がつくのであるが、このクリは性の転換によってすべてが雌花となったものである。
	岩手山高山植物帯	天然記念物 (植物)	滝沢村大字滝沢岩手山国有林内	不動平火口原から上は、高山荒原に生える第一次高山植物が点在し、いわゆる第一次乾性植物群落をなしている。これに対し不動平一帯は、第二次陽性植物群落になっている。
	横山のウグイ生息地	天然記念物 (動物)	登米市津山町横山字北沢本町	横山にある大徳寺境内の池は、湧水なので四季を通じて水温に変化が少なく、多数のウグイが生息している。これは不動尊のお使いとされ、参詣者から餌を与えられ愛護されてきた。
	沢辺の ゲンジボタル発生地	天然記念物 (動物)	栗原市金成沢辺字木戸口	沢辺字木戸口にある板倉堰の延長約770mに及び地域に、かつて異状とも言えるほど大量にゲンジボタルが発生した。一時期ボタルがほとんど見られなくなったが、農業用水と蛍発生水路とを分離する改修事業を行った結果、近年再びゲンジボタルが戻り始めた。
	伊豆沼・内沼の鳥類 およびその生息地	天然記念物 (動物)	栗原市築館、栗原市若柳、 登米市迫町ほか	この地域にはこのほかハクチョウ、マガン、ヒシクイ、ハクガン、オナガガモ等多くの種類の種類がみられ、学術的にきわめて貴重であり、観光的にも有名である。なお、伊豆沼・内沼は、冬鳥渡来の湿地帯としてラムサール条約に登録されている。
	イヌワシ繁殖地	天然記念物 (動物)	石巻市北上町女川	イヌワシは両翼の長さが2mに達する雄大なワシで、日本にはまれな種類である。ここ翁倉山では、アカマツやヒメコマツの巨樹上に巨大な巣を作っている。極めて貴重な種の鳥であることから、捕食動物の生息も含めた生活域の保全が求められる。
	東和町 ゲンジボタル生息地	天然記念物 (動物)	登米市東和町	北上川中流の支流である鱒淵川の上流馬ノ足から、寺内地内岩淵橋までの範囲が指定され、特に中間の軽米地区から岩淵橋にわたって生息している。分布北限地帯の群生地として貴重であるが、洪水時に鱒淵川の生息地が荒廃するのを防止するため、増水時の流路を新たにたつて、その保護をはかっている。
	夏油温泉の石灰華	天然記念物 (地質鉱物)	北上市和賀町岩崎新田	わが国では、石灰華の見られる温泉は少なくないが、夏湯温泉の石灰華のように広い範囲に大規模に発達し、しかも「天狗の湯」石灰華ドームのように巨大なものは他に例がなく、きわめて貴重である。
	葛根田の大岩屋	天然記念物 (地質鉱物)	雫石町西山字東葛根田	一般には玄武洞と呼ばれているが玄武岩ではなく、含かんらん石両輝石安山岩である。安山岩・玄武岩・流紋岩などの火山岩には、しばしばこのような柱状節理の発達が見られる。
焼走り熔岩流	天然記念物 (地質鉱物)	八幡平市田頭上坊山国有林内	熔岩流は各地で見られるが、しかし、焼走り熔岩流はこのように噴出時期が明らかで、噴出後現在まで樹木の生育を見ず、全貌を留めているのは稀であり、わが国の代表的な熔岩流として学術的に極めて貴重である。	